

# 学校評価報告書（最終評価）

<評価の流れ>①外部アンケート、自己評価アンケート結果の分析→②自己評価改善策→③学校関係者評価委員会→④公表

評価：各アンケートの肯定評価（A+B）の割合

		自己評価				外部評価				分析結果				
		評価項目	番号	評価項目	評価方法・指標	中間評価	最終評価	保護者アンケート	中間評価	最終評価	児童アンケート	中間評価	最終評価	具体的な取組・成果
学力	効果的なICTの活用・授業改善	1	ICTの効果的な活用と紙書のバランスを考慮し、わかりやすい授業に努めている。	活用頻度	100	100	タブレットを使った学習はわかりやすいと言っている。	98	94	タブレットを使った学習は、わかりやすい。	100	96	タブレットを試行錯誤しながら使ってみたことで効果的な使い方が分かってきた。また、児童の興味関心、学習意欲が高まった。	タブレットを使うことが目的になってしまったこともあるので、ねらい達成のために深める場面の有効な活用方法を考えていく。
		2	漢字コンテストで目標達成率（90%以上）を達成できている。	合格点達成率	83	100	学年に応じた漢字の力を身に付けている。	94	94	習った漢字を練習し、正しく書くことができる。	96	96	児童は目標を持って計画的・意欲的に合格を目指して取り組んでいた。	定着できるように定期的に同じ問題を家庭学習などで取り組ませる。
		3	計算コンテストで目標達成率（90%以上）を達成できている。	合格点達成率	100	100	学年に応じた計算の力を身に付けている。	98	90	計算問題や漢字の間違いは、必ず直しをしている。	92	96	忘れかけている問題を集中して取り組むことで定着につながった。	合格であっても簡単なミスがあったので、繰り返し問題に取り組ませる。
		4	家庭学習の内容や方法等具体的に指導し、家庭学習の定着に努めている。 *1年:20分、2年:30分、3年:40分、4年:50分、5年:60分、6年:70分	学年目標時間達成率	100	100	家庭学習の習慣が身につけている。	81	79	学年の目標時間、家庭学習をしている。 *1年:20分 2年:30分 3年:40分 4年:50分 5年:60分 6年:70分	92	87	家庭学習強化週間は時間を意識して集中して取り組んでいる。	目標時間で学習する習慣をつける。そのために内容の充実を図る。 （読書や自学、つまずきそうな児童には帰る前にフォローする等）
知徳体バランスのとれた学校	豊かな心	5	挨拶の定着・習慣化	肯定評価	100	100	「挨拶」の習慣が身についている。	98	94	いつも大きな声で挨拶のよい「あいさつ」をしている。	98	98	社会科見学やプールなど学校外でのあいさつもしっかりできるようになった。	自分で考えてあいさつができるように、どのような時にあいさつをするのか指導する。
		6	粘り強くやり抜く子の育成	目標の持たせ方・達成状況	100	100	勉強や習い事などで、目標を持って粘り強く取り組んでいる。	88	90	勉強や行事などで、目標を持って粘り強く取り組んでいる。	92	92	自分の現状を考え具体的な目標設定がうまくいった。定期的に見直ししたり意識させたりすると有効であった。	目標が達成できずに消極的になる児童がいる。過程も認められるように声をかけていく。
		7	思いやり・助け合うことができる子の育成	児童の様子・観察	100	100	相手の気持ちを考えた思いやりの心を育み取り組んでいる。	88	85	相手の気持ちを考えた話し合い、行動したりできる。			自分の気持ちを伝える取組が増えたことで、どんなことがうれしくて嫌なのかお互いに考えるようになった。	今後も継続して取り組む。
		8	児童は、友達と助け合いながら仲良く学校生活を送っている。	児童の様子・観察	86	86	学校での様子や友達のことを家でよく話している。	86	83	学校での様子や友達のことを、家の人によく話している。	88	85	「家で友達のことを話さることが多くなった。」と保護者からお話があった。	休み時間等にトラブルとなることがあった。遊び方や友達に対する言葉のかけ方を指導していく。
健やかな体	基本的な生活習慣の形成と健康な食生活の充実	9	家庭と連携し基本的な生活習慣（早寝早起き歯磨き）の形成を図っている。	生活リズムアンケート等	50	57	早寝・早起き・歯みがきの習慣が身につけている。	82	85	早ね・早起き・歯みがきができています。	90	83	生活リズムが崩れるとどんな良くないことが起こるかを動画を見て、自分の生活を振り返ることができた。	ゲームなどをして就寝時刻が遅くなる児童がいる。ゲームについての学習指導を行い、生活リズムを整える大切さを伝える。定期的に確認する。
		10	家庭と連携し健康な食生活（朝ごはん・好き嫌いなし）の充実を図っている。	生活リズムアンケート等	75	100	朝ご飯など食事を好き嫌いせず食べている。	85	83	朝ご飯や給食を好き嫌なく食べている。	87	90	朝ごはんを欠食する児童は少ない。栄養バランスは少しずつ改善されていく。	家庭との連携が不十分であった。バランスの良い朝ご飯になるように啓発していく。
		11	ゲームの時間やネット使用の約束など家庭と連携し、指導を行っている。	生活リズムアンケート等	40	29	ゲームやインターネットの約束を守っている。	83	77	約束、ゲームやインターネット使用の約束や時間を守っている。	96	94	生活リズムアンケートの結果を示すことは有効であった。	家庭でのルールを守っていない。ゲームの時間やネット使用の約束、ネット依存についても学級指導を行う。
		12	体力アップ1校1プランの取り組み	全校や学級での取り組み	100	100	体を動かすことが好きである。	96	100	運動をするのは、楽しい。	94	96	スポチャレは他校とも勝負しながら目標を立てて取り組めるのでとても意欲的であった。	体育担当として日頃からスポチャレの取組の声かけが少なかったため、校内など大会に向けて練習を呼びかける。
特別支援教育	組織的な児童の理解・支援体制	13	児童理解の会での共通理解や共通指導を徹底し、児童のより良い人間関係の構築に努めている。	児童観察・なかよしアンケート	100	100	友達と仲良く学校生活を送っている。	98	94	友達と一緒に遊んだり、活動したりするのは楽しい。	100	100	児童理解の会で他学年の状況を知ることで児童とのかかわり方を変えることができた。	実際に担任をしていない分からの点があるため、より具体的に伝え共通理解を図っていく。
		14	学習面において、個に応じた指導を行っている。	個別指導の内容	100	100	学校は、学習面において1人1人に応じた指導をしている。	96	100	先生は、勉強が分からないとき、分かるように教えてくれる。	98	98	繰り返し個別指導を行うことで、テストの点数が良くなっている。	授業で理解できるように授業改善に取り組む。
		15	子どもの特性を理解し、困りごとを解決できるように支援している。	生徒指導の内容	100	100	学校は、子どもの特性（性格や困り感）を正しく理解している。	98	98	先生は自分の話を良く聞いてくれる。	98	100	困っていることを相談しやすい声かけをしている。児童から訴えがあった場合はすぐに対応している。	自分から相談できない児童にも気をつけて見ていく。
		16	子どもの自己肯定感を高めるための取り組みや肯定評価に努めている。	児童会や学級での取り組み	100	100	学校は、子どもの自己肯定感を高める取り組みをしている。	96	98	先生は、自分の良いところやがんばっているところをほめてくれる。	100	98	「ありがとうの木」やスポーツふれあいタイムで他学年と関わることで自分自身の良さや成長を実感している。	当たり前にできていること、続けてできていることに対して声かけが少なかったため、認め励ますなど肯定的な声かけをしていく。
安心安全な学校	危機管理	17	避難訓練を通して非常災害発生時の避難行動の仕方を身につけさせている。	避難訓練振り返りカード	100	100	学校は、避難訓練などを通して子どもたちの安全教育を行っている。	94	100	ひなん訓練や交通安全教室で学んだことなど、安全に気をつけて登下校をしたり、学校生活を送ったりしている。	98	98	避難訓練の目的と重要性を事前指導で行ったので、年度当初より真剣に取り組む児童が増えた。	さまざまな場面を想定した避難訓練を行い、自分で考えて行動できるようにしていく。
		18	保護者が連絡・相談したことに對して、誠意を持って対応している。	保護者への対応	100	100	学校は、保護者が連絡・相談したことに丁寧に対応してくれる。	94	100	困ったことがあったら、先生に相談できる。	98	96	保護者からの相談を真摯に受け止め、対応することができた。	今後もお互いに情報交換しながら取り組む。
		19	学校は、施設・設備の整備に努め、学校安全や環境美化に努めている。	安全点検・自問清掃	100	100	学校は、施設・設備の整備に努め、学校安全や環境美化に努めている。	96	100	そうじの時間は、3つの玉をみがくようにがんばっている。	96	100	校務員やスクールサポートスタッフが環境整備をしてくれるので、助かっている。	今後も継続して取り組む。
		20	「報告・連絡・相談」を徹底を図り、協力的に課題解決に取り組んでいる。	「報告・連絡・相談」の内容	100	100	学校は、緊急メールやお知らせなどで、迅速に情報を発信している。	98	100	学校からのお知らせは、忘れずに家の人にわたしている。	90	88	管理職や他の先生方と情報交換をスムーズに行い、今後の対応について確認することができた。	今後も早めの「ほう・れん・そう」を行う。
開かれた学校	家庭地域の連携	21	保護者や地域への情報発信	おたよりやホームページの内容等	100	100	学校は、学校だより、ホームページなどを通じて、学校での教育活動の様子をわかりやすく伝えている。	98	100	おうちのの方は、学校での様子や作品紹介を楽しみにしてくださっている。			今後継続して取り組む。	
		22	家庭と連携した読書活動の推進	1ヶ月の目標読書冊数(10冊以上)	100	100	家庭読書習慣以外にも、家庭で読書をする機会を持つようになっている。	89	77	朝読書以外にも読書をしている。(目標 1ヶ月10冊以上)	85	79	学級文庫をこまめに入れ替えたことで様々なジャンルの本を手にとることができた。	親子で読書をする読書週間を設定し、家で読書をする習慣を身に付けさせる。
		23	保護者や地域と連携を図り、PTA活動や教育活動を行っている。	学校行事・PTA活動内容	100	100	学校は、保護者や地域と連携を図り、PTA活動や行事等を行っている。	94	98	学校行事(マラソン大会)やPTAの親子行事(防災スタンプラリー)など保護者や地域と連携を図ることができた。			コロナ禍で制約のある中、本校の課題解決に向けたPTA活動等を考えていたが実践する。	
		24	地域の素材をもとに学習活動を行ったり、地域の人材を活用したりして「ふるさと教育」を積極的に展開している。	地域の教育資源の活用状況	60	100	学校は、地域教材を活用したり、体験活動を取り入れたしなが「ふるさと教育」を推進している。	98	98	児童は地域の方と関わることで、地域の良さを実感することができた。			今後も継続して取り組む。	
活カある教師集団	研修・業務改善	25	児童・保護者・地域に信頼される教師集団作り	服務規律の遵守	100	100	服務規律の遵守			全職員が服務規律を遵守することができた。			常に教育公務員であるという自覚をもって過ごす。	
		26	組織的、計画的な人材育成による教職員の資質・授業力向上	校内授業研究等	83	100	校内授業研究等			学力向上プランの実践により学習内容の定着が図れた。			教師主導の授業になることがあったので、タイムマネジメントを意識し授業改善を図っていく。	
		27	校務分掌や得意分野において意欲的に取り組んでいる。	校務分掌提案内容等	100	100	校務分掌提案内容等			職員会議の提案は昨年の反省をもとに提案している。校務分掌の提案についてもより良くするためにはどうすればよいか常に意識している。			本質を考え、目的を確認し直し、児童の活躍の場を増やすことを目指して計画していく。	
		28	業務改善とワークライフバランス	時間外勤務時間	83	86	時間外勤務時間			週単位で計画を立て優先順位を立て取り組んでいる。余裕のあるものは早めに取りかかり、勤務時間内に終わるようにした。			優先順位を考え、見直しをもって早めに取りかかる。	